

平成 31 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○授業時間の確保に努めるとともに組織的な授業改善に取り組み、生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導を通じて、基礎学力の定着と応用力の伸張を図る。	① 学校行事等を工夫して、授業時間の確保を更に進め、量と質の充実を図る。 ② 主体的、対話的で深い学びを実現するために、生徒の能動的な言語活動を取り入れた授業研究・実践、4技能を活用した英語教育の充実などを通して、思考力・判断力・表現力の育成及び基礎・基本の定着と発展・応用力の伸長を図る。 ③ 現代に求められる国際性とコミュニケーション能力の育成を図るグローバル教育の充実を図る。 ④ 課題など工夫ある取組により、家庭学習習慣の定着を図る。	① 学校行事等の工夫等により、授業時間の確保を更に進める ② 「授業見にいこう週間」・教科会協議・研究授業・職員研修等により、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点を取り入れた授業実践等を進める。 ③ 英語4技能をバランスよく取り入れた授業実践により、実践的英語運用能力・プレゼンテーション能力等の充実を図る。 ④ 家庭学習習慣を定着するよう週末課題、面談指導など各種取組を行う。	① 授業時間数をさらに確保できたか。 ② 思考力・判断力・表現力を育成する授業実践を行うことができたか。生徒による授業評価の項目4「かなり当てはまる」の回答率を昨年度より高められたか。 ③ 4技能をバランスよく取り入れられたか。グローバル教育の充実を図ることができたか。 ④ 週末課題など各種取組により、家庭学習時間は増加したか。	① 学校行事・成績処理の日程等を工夫し授業時間を確保することができた。 ② 「授業見にいこう週間」では教科の枠を超えた授業参観を実施し、振り返りシートを通して有益なヒントを共有した。8月の研修会では、若手教員の授業実践例を参加者全員で共有することにより、主体的・対話的で深い学びについての最新の知見を得ることができた。11月の授業改善研修では教科の枠を超えて授業改善のヒントを得ることができ、12月の生徒による授業評価へとつなげることができた。 ③ 英語の各科目においては、会話テスト、プレゼンテーション、リスニングテストなどを実施することができた。また国際教育講演会も実施し、グローバル教育の充実を図ることができた。 ④ 家庭学習時間は大幅に増加せず課題が残った。	① 成績処理の時間を確保した上で授業時間を確保する工夫ができるかどうか課題である。 ② 授業改善研修は概ね好評だった。今後も本校での実践例を共有し、授業改善を継続する。11月の授業改善研修、12月の生徒による授業評価の結果を受けて次年度の授業改善につなげていく。ICT活用が1つの課題である。 ③ 大学入試共通テストのリスニングの比重が上がったのに伴い、リスニング力を養う授業内容のさらなる充実が課題である。 ④ 家庭への協力を呼びかけながら、粘り強く指導を続けていく。各教科で課題の工夫も継続する。調整に苦慮するところがあるが、授業時間を確保し目標を達成するよう工夫・調整を進める。	① 授業時間は学校教育の基本的な部分なので、学校行事等にも留意して基準を満たしてほしい。コロナウィルスによる学習の遅れを懸念している。ICTを活用し、オンライン授業等を推進してほしい。 ② 授業改善を続けてほしい。授業内容の工夫生徒の自己肯定感を育み、学習意欲をアップさせるような授業と指導をお願いしたい。家庭での働きかけも必要だと感じる。 ③ 生徒の学習意欲を高め、グループ学習や討議で「できる」を実感させ、グローバル時代を生き抜く自信を養ってほしい。 ④ 自己管理能力が高ければ週末課題は要諦だ。課題の工夫よりもスタディサプリなど外部資源を活用した家庭学習教材や第三者によるコーチング等も考えると良い。ポイントは「全校を挙げて」取り組むことである。	・様々な工夫を凝らし、昨年度より授業時間を確保できた。 ・授業観察の振り返り、指導主事を招いた2回の職員研修、公開研究授業・研究協議、同窓会寄贈によるICT機器活用等により、組織的な授業改善を進めることができた。思考力・判断力・表現力の育成に繋がるAL型授業実践は今年度当初より見られるようになったが、十分とは言えない。 ・英語4技能を取り入れる授業実践を進めているが、本校の特色を考えると英語力及びグローバル教育は十分とは言えない。 ・家庭学習時間の減少が見られ不十分である。進路実現、基礎学力定着・伸長に向けて喫緊の課題である。	・授業改善の取組は一定の成果を収めているものの、「生徒による授業評価」の数値向上を目標に、各教科がレクチャーとのバランスを考慮して生徒の自己表現活動を更に取り入れたり職員研修等を実施したりするなど学習指導力の向上を図り、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力を育成するよう授業改善を更に進める。 ・本校の特色である英語教育、グローバル教育の強化を更に図る。 ・学習習慣の定着に向け、具体的な方策によって全校で取り組む。
2 生徒指導 支援	○学校行事・生徒会活動・部活動なども含めた学校生活全般を通じて豊かな人間性・社会性を備えた生徒を育成するとともに、規範意識の向上を図る。	① 学校行事・生徒会活動・部活動等を通して、生徒の主体性と豊かな人間性・社会性を育成する。 ② 共通理解のもと、全教職員が共同歩調で生徒指導に当たり、生徒の規範意識向上等を図る。 ③ 心身ともに健康な学校生活を送れるよう学校内外の教育相談等の機能を活用し、支援する。	① 学校行事等を通して生徒自らが考え、「おもてなし」の気持ちを持って組織的に計画・実行ができるよう指導・支援する。 ② 欠席・遅刻など基本的な生活習慣・時間管理の確立及び学習と部活動等との両立を図るよう指導・支援する。 ③ 教育相談体制の充実を図り、支援の必要な生徒の情報共有、外部との連携も図りながら適切な支援に当たる。	① 各学校行事等において生徒が主体となって行動し、満足度が高いものになったか。計画的に実施できたか。 ② 登下校指導・評議員等の支援等により、遅刻者数を昨年度より減少できたか。また時間管理を徹底させることができたか。 ③ 面談・いじめアンケート等を活用し適切な教育相談支援体制を実施できたか。外部と連携を図りながら支援することができたか。	① 体育祭は内容を大きく変更したが、生徒会、体育祭実行委員会、幹部生徒など準備から当日まで意欲的に取り組み、大成功に終わった。鴻志祭は全校生徒が関わる内容が盛りだくさんだった。台風により、2日目以降の予定が変更となったが、生徒達は臨機応変に動けた。恒例の花火も10月に実施できた。部活動加入率は例年と変わらなかったが、退部者が相変わらず多くなった。文芸部、自然科学部、メディア研究部、チアが全国大会に出場した。 ② 遅刻指導は学年ごとに実施し、学校として月一回「遅刻ゼロの日」を設け、各クラスの評議員から遅刻防止を呼びかけた。 ③ 年度当初に全職員対象情報交換会を実施した。各学年に教育相談係を配置し、ケース会議、コア会議等で情報を共有できた。いじめアンケートを年2回実施し、担任、グループで把握し、全体で共有することができた。「いのちの授業」を実施し、全校生徒、職	① 体育祭は来年度に向けて種目内容を検討する。鴻志祭は異装や本校をもっと知ってもらおうブース開設など、新たな取り組み検討している。「おもてなし」を追求し、多くの保護者、中学生、地域住民などに来場していただける行事を目指す ② 遅刻は同じ生徒が繰り返す傾向があるので、指導内容を検討する。夏季の気温上昇を考慮し、来年度から指定のポロシャツを導入した。継続してきちんと制服を着こなすよう指導する。部活動の活性化は大きな課題であり、特に退部者を出さない取組、4月の部活動体験期間中に新入生の加入率を上げる取組を検討する必要がある。 ③ 一部の学年で教育相談コーディネーターとの連携が上手く機能しなかったため、教育相談コーディネーターとの連携を密にして、生徒情報を全体で共有する。	① 体育祭の内容変更等、鴻志祭の予定変更等があったが、生徒が主体的に動く姿が見られ感心した。生徒が主体的に参加する工夫・改善を重ねてほしい。魅力ある学校にするためにも部活動の活性化は重要だ。 ② 気を抜かず、遅刻や服装など日常的な指導を続けることは良い。突き放すのではなく粘り強く、寄り添う指導を続けてほしい。遅刻など習慣の改善は重要な課題なので、改善の事例共有や指導研修があると良い。挨拶運動は遅刻減少に直接つながるが、意識改革に向けてPTAも協力する。 ③ 教育相談体制の充実と教職員の人権感覚の向上に努めてほしい。教職員のひとことや初動の円滑さが、生徒と保護者の苦しさを和らげ学校への信頼を高める。その逆にもなる。「いのちの授業」に地域をご招待いただき感謝する。貴重な時間	・体育祭、鴻志祭は様々な変更点があったものの、生徒の主体性と協力性を引き出すように努めた指導と職員体制により、生徒の満足度が高く、保護者・地域の方々にも喜ばれる活気ある学校行事を実施することができた。 ・登下校指導等を定期的に実施したが、遅刻者数を昨年度より減少できなかった。身だしなみについては指導の共通理解を図る必要がある。 ・アンケート、情報交換会、ケース会議等との密接な連携により、生徒を適切に支援できたが、機能的な教育相談体制面で課題が残った。新たな取組として「いのちの授業」を実施し、校内外で命の大切さを実感する機会	・学校行事の活性化を引き続き図り、生徒の主体性、社会性、協力する姿勢等を育成するよう指導・支援する。 ・基本的な生活習慣の確立、身だしなみ、学習と部活動等との両立については、保護者と連携しながら職員が共同歩調で着実に指導していく。学習との両立を図りながら、部活動の活性化を進める。 ・教育相談コーディネーターを機能させ、機動的な教育相談支援体制の強化を図り、支援を必要とする生徒に対して丁寧な支援を行う。「いのちの授業」は、今後も自他の命を大切にす教育の実践として継続して取り組む。

						員、地域住民、保護者で命の大切さを再認識した。		を過ごすことができた。	となり、好評を博した。	
3	進路指導・支援	○教育活動全般を通じてキャリア教育を一層充実させ、コミュニケーション能力の向上と望ましい勤労観・職業観の育成に努め、生徒一人ひとりの希望に沿った進路実現を図る。	① 高大接続改革の流れを踏まえ、組織的かつ個に応じたきめ細かい進路指導等を通して、着実な学力の定着を図り、第一希望進路を実現する。 ② 「総合的な学習（探究）の時間」の充実を図り、コミュニケーション能力など諸能力の向上を図る。	① 最新情報の提供・模擬試験等のデータ分析・インターシップ・面談など組織的な進路指導を通して、生徒の進路意識を高め、第一希望進路の実現を図る。また検定試験等を活用して、英語4技能をバランス良く育成する。 ② 「総合的な学習（探究）の時間」の充実を図り、探究活動を更に進める。	① 生徒の進路意識及び進路実績を昨年度より高められたか。英検準2級の取得者を昨年度より増加できたか。校内指導体制の充実を図れたか。 ② 探究活動の環境整備・内容の充実を図れたか。	① 外部試験実施後、振り返り講演会を実施した。外部試験結果を三者面談で活用した。外部試験結果分析を職員で共有した。全学年懇談会において、来年度からの入試制度を保護者に説明した。川崎市地区インターンシップに51人が参加した。 ② 総合的な学習（探求）の時間で進路に関わる情報を提供した。英語検定のWRITING指導を総合的な学習（探求）の時間で行い意見文の構成を理解させた。総合的な学習（探求）の時間で各学年が調査・考察を発表した。	① 外部試験のデータを活用し、授業での弱点克服等を職員に促し、生徒の学力向上を目指し、第一希望の進路実現への足固めとする。	① 外部試験結果を面談や職員研修に活用することは良いことだ。継続してほしい。英語外部試験の取得率や大学合格状況は、重点改題としてオープンに数字で目標設定・検証をすると良い。英語はこれからも重要視される。進学についても大学入試対策を行い、チャレンジさせてほしい。生徒一人ひとりに対して進路のバックアップを更にお願したい。 ② 生徒の探究活動の具体的な取組と成果を明示してほしい。	・外部試験結果を職員で共有し面談等で活用したが、進路実績を昨年度より高められなかったとは言えず、具体的な学習・進路指導、進路実績に繋げるよう研修・分析会の工夫が必要である。インターシップ参加数は昨年度より増加した。 ・英検準2級の取得率は昨年度より増加したが、本校の特色を考えると不十分である。	・外部試験分析会等をタイムリーに複数回実施するなど充実を図り、学習・面談・進路指導に一層活用し、生徒の進路意識及び進路実績向上に繋げる。 ・組織的な指導体制を確立し、英検準2級の取得率向上を図る。 ・生徒の探究活動の取組成果を検証し、質の向上を図る。
4	地域等との協働	○保護者・地域に情報を発信し、本校の教育活動への理解・関心を高め、保護者・地域との連携・交流・協力の深化を図る。	① 保護者・近隣の小中学校、地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを更に進める。 ② 広報活動の充実を図り、本校の魅力・特色を更にアピールする。 ③ 生徒が地域で活躍できる場を拓き、地域に根ざした学校づくりを推進する。	① 保護者・地域等との連携を通して、より良い学校の教育環境づくりを推進する。また学校運営協議会の地域連携部会を通して、地域との連携・効果的な取組を進める。 ② 学校説明会等の精選を図り、内容の充実を図る。HP・まちコミ・学校案内等により、広報活動を更に進める。 ③ 生徒発表会や生徒派遣などを進め、地域連携を推進する。	① 保護者・小中学校等と連携を図り、具体的な取組に繋がったか。また学校運営協議会を通して、連携を深め、効果的な取組を進めることができたか。 ② 学校説明会等の精選と充実を図り、効果的な情報発信ができたか。またHP更新回数が増加、まちコミ、学校案内の工夫等を進め、タイムリーに情報発信できたか。 ③ 生徒が地域で活躍する場が確保できたか。	① 学校運営協議会ではキャリア部会、地域連携部会に分かれ、発展建設的な意見交換ができた。川崎地区交通安全大会など保護者と教職員が連携を密にして、PTA活動を活性化できた。 ② まちコミを活用して様々な連絡をし、保護者と連携が図れた。学校案内、パンフレット等を見直し、インパクトのあるものが作成できた。 ③ メディア研究部の小学生向けの「非行防止教室」、「子どもの発達と保育」選択者の保育実習、野球部のどんと焼き参加など地域と連携を図り、地域交流活動にも参加した。学校行事や学校説明会など、終了後すぐにHPを更新し、素早いタイミングで情報発信ができた。	① 保護者と教職員の連携を更に密にして今後もPTA活動の活性化を図る。 ② マチコミを広く活用し、印刷物の減少、環境保護につながるよう、保護者宛の配付物などもまちコミメールで配信するよう検討する。学校案内、パンフレットは毎年工夫し、よりインパクトのあるものを作成する。HPも新たにホーム画面が統一されるため、本校らしきを出していく工夫が必要である。 ③ 地域交流活動に参加する部活動が少ないので、協力を得る工夫が必要である。	① 地域との連携強化を引き続きお願いしたい。地域に開かれた学校づくりのためにも、色々な場面で小・中との連携は大切だ。生徒や学校のことを知ってもらうためにも大切だ。 ② まちコミの活用は登録増加にも繋がりが良い。双方向の連絡ができれば災害時の安否確認にも活用できる。地域交流活動への参加はとても良いことだ。働き改革もあるのでバランスを考えながら続けてほしい。どんと焼きに参加していただき、地域行事の一端を生徒が経験したことを嬉しく思う。	・学校運営協議会、学校行事・公開研究授業・いのちの授業の参観等を通して本校の教育活動を発信し、地域・小中学校保護者等と連携を深めることができた。保護者との連携を密にして、川崎地区交通安全大会等を成功裏で終えられた。 ・ウイルス感染拡大対策もあり、まちコミ・HPでタイムリーに情報発信を行い、更新回数は昨年度より増加した。 ・地域防災会議、地域交流活動にも昨年度より多く参加することができた。	・保護者・小中学校・地域と連携を図り、学校運営協議会・学校行事など様々な機会を捉えて本校の魅力と特色を発信し、開かれた学校づくりを更に進める。 ・まちコミなどの効果的な活用方法を検討する。HPリニューアルに向けて本校の魅力をアピールするように作成する。 ・働き改革を念頭に置きつつ、生徒の防災意識・自己肯定感・社会貢献に繋がる地域交流活動に参加していく。
5	学校管理 学校運営	○安心・安全な学校づくりの推進を通して、生徒・保護者・地域からの信頼と期待に応える。	① 教育公務員としての高い倫理観と法規法令遵守を徹底するとともに、成績処理、推薦入試業務、入学選抜業務、会計処理など各種業務での事故防止を徹底する。 ② 安心・安全な教育環境を整備する	① 不祥事ゼロプログラムのもと、事故防止会議、職員研修等を通して、事故不祥事防止に向けた教職員の意識を高める取組を徹底して行う。 ② 日常的な美化指導、環境教育を通して、生徒の環境美化・省エネルギーへの意識（清掃・ゴミの分別回収・節電・節水等）を高める。また実践的な避難訓練等を通して生徒の防災意識向上を図るとともに、具体的な対策を進める。	① 教職員の連携のもと、各種取組を実施し、事故不祥事を防止できたか。 ② 衛生的で落ち着いた教育環境を整備できたか。美化指導、環境教育等により、生徒の環境・美化意識を高めることができたか。また実践的な避難訓練の実施、防災用品の計画的な配備ができたか。	① 全職員へ事故不祥事防止の効果的な研修啓発活動を実施した。私費の会計処理について指摘事項があったので、改善に努めた。 ② 防災用品を計画的に配備することができた。ゴミの分別や節電等を通して省エネルギーへの意識を高めることができた。	① 事故不祥事防止については、日常的に全職員へ効果的な研修・啓発活動を実施する。私費の会計処理は慣れによる事故を防止する。 ② 生徒が自分の身を守る行動がとれる防災訓練・啓発活動を継続する。防災用品の計画的な配備を次年度へつなぐ。備蓄倉庫整備が課題である。	① 定期的に会議を開催して、一過性にしないように組織的に取り組むことが事故を起こさないために効果的だ。不祥事防止、事故防止への取組を引き続きお願いしたい。 ② 定期的に活動し継続的に防災に備え、生徒が安心して学校生活を送れるよう環境を整えてほしい。災害時に地域と生徒が協力してどのような対応ができるか、役割などについて今後、検討をお願いしたい。コロナウイルスで衛生面など必要物品の備蓄について考えさせられた。PTAも防災に協力していく。	・不祥事ゼロプログラムのもと、事故防止会議、職員研修等を計画的に実施するとともに、職員間の連携を図って成績処理、入学選抜業務などの事故を防止できたが、生徒指導面では課題が残った。 ・日常的な美化指導等により、衛生的な環境を整備できた。避難訓練を実施したが、形骸化しないよう工夫ある取組が必要である。生徒の防災用品を配備できたが、十分とは言えない。	・教育公務員としての倫理観を醸成するとともに、職員研修を実施して人権感覚を磨き、生徒指導力向上に繋げる。会計処理については引き続き指摘事項の是正、適正化を図る。 ・生徒の防災意識及び環境美化等の意識を更に高め、主体的な行動に繋げる。より実践的な避難訓練、防災用品の更なる整備や地域とも連携した防災対策を進めていく。